

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 17 年 6 月 23 日 (2005.6.23)

【公開番号】特開 2004-107576 (P2004-107576A)

【公開日】平成 16 年 4 月 8 日 (2004.4.8)

【年通号数】公開・登録公報 2004-014

【出願番号】特願 2002-275329 (P2002-275329)

【国際特許分類第 7 版】

C 0 8 L 77/06

C 0 8 G 69/26

C 0 8 J 5/00

C 0 8 K 3/00

C 0 8 K 5/20

C 0 8 K 5/21

// (C 0 8 L 77/06

C 0 8 L 75:02

C 0 8 L 101:04 )

【F I】

C 0 8 L 77/06

C 0 8 G 69/26

C 0 8 J 5/00 C F G

C 0 8 K 3/00

C 0 8 K 5/20

C 0 8 K 5/21

C 0 8 L 77/06

C 0 8 L 75:02

C 0 8 L 101:04

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 9 月 28 日 (2004.9.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

半芳香族ポリアミド (A) を構成するジカルボン酸単位は、50 モル % 以下であれば、テレフタル酸単位以外の他のジカルボン酸単位を含有していてもよい。かかる他のジカルボン酸単位としては、例えば、マロン酸、ジメチルマロン酸、コハク酸、グルタル酸、アジピン酸、2 - メチルアジピン酸、トリメチルアジピン酸、ピメリン酸、2, 2 - ジメチルグルタル酸、2, 2 - ジエチルコハク酸、アゼライン酸、セバシン酸、スベリン酸等の脂肪族ジカルボン酸；1, 3 - シクロペンタンジカルボン酸、1, 4 - シクロヘキサンジカルボン酸等の脂環式ジカルボン酸；イソフタル酸、2, 6 - ナフタレンジカルボン酸、2, 7 - ナフタレンジカルボン酸、1, 4 - ナフタレンジカルボン酸、1, 4 - フェニレンジオキシジ酢酸、1, 3 - フェニレンジオキシジ酢酸、ジフェン酸、4, 4' - オキシジ安息香酸、ジフェニルメタン - 4, 4' - ジカルボン酸、ジフェニルスルホン - 4, 4' - ジカルボン酸、4, 4' - ビフェニルジカルボン酸等の芳香族ジカルボン酸から誘導される単位を挙げることができ、これらのうち 1 種または 2 種以上を使用することができる。これらの中でも芳香族ジカルボン酸から誘導される単位が好ましい。これらの他のジ

カルボン酸単位の含有量は、40モル%以下であることが好ましく、25モル%以下であることがより好ましく、10モル%以下であることがさらに好ましい。また、トリメリット酸、トリメシン酸、ピロメリット酸などの多価カルボン酸から誘導される単位を、溶融成形が可能な範囲内で含有していてもよい。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

上記の脂肪族アルキレンジアミン単位の中でも、1,6-ヘキサレンジアミン、1,8-オクタレンジアミン、2-メチル-1,8-オクタレンジアミン、1,9-ノナレンジアミン、1,10-デカレンジアミン、1,11-ウンデカレンジアミン、1,12-ドデカレンジアミンから誘導される単位が好ましく、1,9-ノナレンジアミン単位および/または2-メチル-1,8-オクタレンジアミン単位がより好ましい。1,9-ノナレンジアミン単位および2-メチル-1,8-オクタレンジアミン単位を併用する場合には、1,9-ノナレンジアミン単位：2-メチル-1,8-オクタレンジアミン単位のモル比は、99：1～1：99であることが好ましく、95：5～60：40であることがより好ましく、90：10～80：20であることがさらに好ましい。1,9-ノナレンジアミン単位および/または2-メチル-1,8-オクタレンジアミン単位を上記の割合で含有する半芳香族ポリアミドを使用すると、耐熱性、成形性、低吸水性がより優れたポリアミド組成物が得られる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

減粘剤(B)を構成する2価以上の多価カルボン酸成分としては、例えば、マロン酸、ジメチルマロン酸、コハク酸、グルタル酸、アジピン酸、2-メチルアジピン酸、トリメチルアジピン酸、ピメリン酸、2,2-ジメチルグルタル酸、2,2-ジエチルコハク酸、アゼライン酸、セバシン酸、スベリン酸、ドデカン二酸等の脂肪族ジカルボン酸；1,3-シクロペンタンジカルボン酸、1,4-シクロヘキサレンジカルボン酸等の脂環式ジカルボン酸；イソフタル酸、テレフタル酸、2,6-ナフタレンジカルボン酸、2,7-ナフタレンジカルボン酸、1,4-ナフタレンジカルボン酸、1,4-フェニレンジオキシジ酢酸、1,3-フェニレンジオキシジ酢酸、ジフェン酸、4,4'-オキシジ安息香酸、ジフェニルメタン-4,4'-ジカルボン酸、ジフェニルスルホン-4,4'-ジカルボン酸、4,4'-ビフェニルジカルボン酸等の芳香族ジカルボン酸；トリメリット酸、トリメシン酸、ピロメリット酸などの多価カルボン酸を挙げることができ、これらのうち1種または2種以上を使用することが可能であるが、減粘剤(B)の熱安定性の点で、また、得られるポリアミド組成物の流動性や生産性の点で、アジピン酸、アゼライン酸、セバシン酸、ドデカン二酸、テレフタル酸が好ましい。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0037

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0037】

減粘剤(B)を構成する2価以上の多価イソシアネート成分としては、例えば、4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート、p-フェニレンジイソシアネート、トルイレンジイソシアネート、1,5-ナフチレンジイソシアネート、3,3'-ジクロロ-4,4'

' - ジフェニルメタンジイソシアネート、m - キシリレンジイソシアネートなどの芳香族ジイソシアネート；ヘキサメチレンジイソシアネート、イソホロンジイソシアネート、4, 4' - ジシクロヘキシルメタンジイソシアネート、水添化キシリレンジイソシアネートなどの脂肪族または脂環式ジイソシアネートなどを挙げることができ、これらのうち1種または2種以上を用いることが可能であるが、減粘剤（B）の熱安定性の点で、また、得られるポリアミド組成物の流動性や生産性の点で、m - キシリレンジイソシアネート、ヘキサメチレンジイソシアネートが好ましい。